

FOMCを受けての日米株式・リート市場

米国の来年の利下げを一段と織り込む展開

2023年12月14日

利下げ開始時期の議論があったとパウエルFRB議長が発言

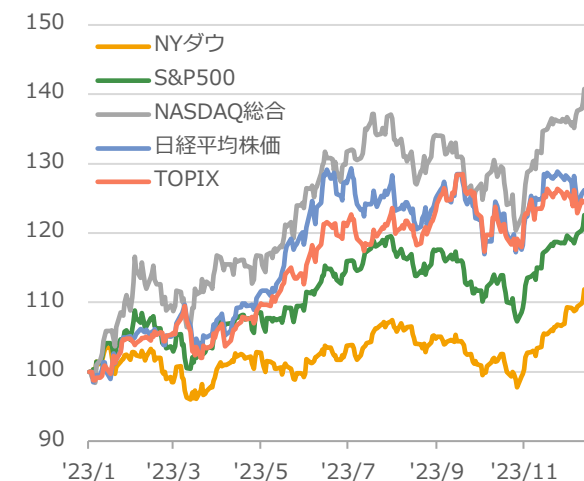
FRB（米国連邦準備制度理事会）は12月12～13日（現地、以下同様）に開催したFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジの据え置きを決定しました。四半期ごとに公表されるFOMC参加者の見通しでは、2023年から2025年にかけてのインフレ率やFF金利が総じて引き下げられました。インフレ抑制に成功しつつあるので今後は金融引き締めを解除（＝利下げ）していく、とFRBは考えているようです。

13日の米国株式市場は、FOMCの結果発表後から上昇しました。ハト派的であった声明文や四半期見通しに加え、利下げ開始時期に関する議論があったとパウエルFRB議長が記者会見で述べたことで金利が急低下し、株式市場でも利下げの織り込みが進みました。今後は景気の減速度合いを見極めつつ、FRBの適切な政策運営に期待する相場展開が続きそうです。日本の株式市場にとっても米国株の堅調さがプラス材料になりそうです。ただし、日米金利差縮小による円高には多少注意が必要でしょう。

13日の米国リート市場は、大幅に上昇しました。10月までは金利上昇が強く悪材料視されていただけに、金利の急低下が大きな買い材料になったようです。今後も金利が低下方向にあると考えられる点は、米国リートの利回り面での魅力回復につながりそうです。日本のリート市場は、国内金利の上昇余地を考慮しても利回り面での優位性が大きく、また米国リート市場の反発も支援材料となりそうです。

日米主要株価指数

（2023年1月初～2023年12月13日）

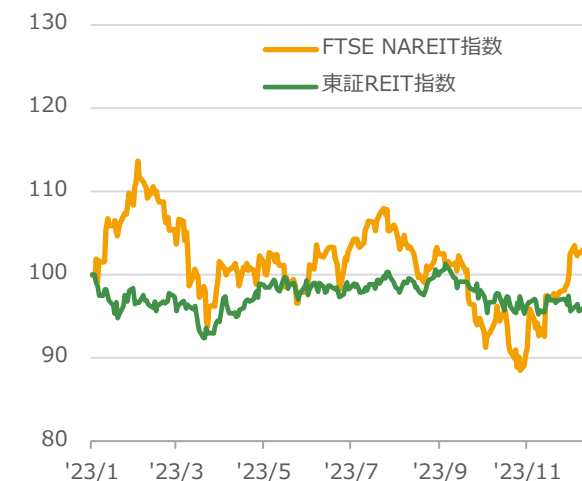


※起点を100として指数化

（出所）ブルームバーグ

日米リート指数

（2023年1月初～2023年12月13日）



※起点を100として指数化

（出所）ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management